

十字架上の七つのことば

第5回「わたしは渴く」

この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渴く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。(ヨハネ 19:28)

1. 背景

十字架の上で長時間の苦しみを味わった後、主イエスは「わたしは渴く」と言われました。これは肉体的な渴きを示すことばであったと思われますが、ヨハネはそこに「聖書の言葉の実現があった」と読み取りました。詩編 69:22 には「**彼らは私の食物に毒を入れ、渴く私に酢を飲ませようとします**」とあり、この預言が成就したと捉えたのです。ヨハネだけでなく、共観福音書記者たちもこのときにローマの兵士が海綿に酔いぶどう酒を含ませて差し出したと記録しており¹、歴史の中でこの行為は「善意」とも「嘲笑」とも解釈されてきました。確定的なことは言えませんが、ヨハネは人間が意図せずに行なったことが神のことばを知らず知らずのうちに成就していたという「摂理」を読み込んでいるのです。

また、古代の解釈では、この「渴き」は人類の救いへの渴望、神の御心の完成を求める渴望とも結びつけられてきました。初代教会の教父たちは、この言葉を「イエスが人間の弱さを完全に担われた証拠」であり、同時に「神の愛の渴き」を表していると説きました。

2. 意味

この言葉には二つの重要な意味があります。

① 人間としての弱さを担うイエス

「渴き」という最も基本的な人間の欲求を語られたことで、イエスが私たちと同じ弱さを完全に負ってくださったことが分かります。

② 救いの成就を願うイエス

このことばは旧約の預言の成就であり、イエスが救いの計画を完全に成し遂げようとしておられる深い思いを示しています。単なる肉体的欲求以上に、「神の救いが人々に届くことを渴望する思い」が含まれていると読むことができます。

3. 適用

私たちも人生で「渴き」を覚えるときがあります。それは愛への渴き、理解されたいという渴き、希望を求める渴きかもしれません。主イエスはその渴きを知り、共感して下さいます。また、イエスが「人の救い」に渴いておられるように、私たちも「神を求める渴き」を持ち続けたい。信仰生活は「渴きを持つ者が神によって満たされる」歩みだからです。

¹ マタイ 27:48、マルコ 15:36、ルカ 23:36

4. 祈り

「主イエスよ、あなたが十字架の上で『わたしは渇く』と語られたことを覚えます。あなたが人間の弱さを完全に担ってくださったことを感謝いたします。私たちの心の渇きをあなたが満たしてくださるよう導いてください。また、あなたが救いを望まれたように、私たちも人々の救いを願い、福音を証しする者としてください。」